

接着・接合の原点

4.

縄文の石鏃について「アスファルト」

2001. 4. 27. asfa.htm by M. Nakanishi

4. 27. 青森山内丸山縄文遺跡から縄文列島へ「縄文文化の扉を開く」歴史民俗博物館企画展が佐倉の国立歴史民俗博物館で開催中。そのシンポジウムを聴講した。

先日 森本哲郎氏の講演で「山内丸山縄文遺跡」は世界4大文明にも並び 5大文明ではないか」と聞いたが 今「山内丸山縄文遺跡」の世界史的位置付けが議論されていた。

世界文明の展開が農耕定住によって育まれたという定説に対し、森と海に囲まれ農耕を持たぬ森の民が高度な文明を数千年にわたり育み、縄文の世界観を全くかえた青森山内丸山遺跡。

あのベストセラー「神々の指紋」で知られるイギリスの作家ハンコックも世界の古代遺跡探訪のドキュメント取材で山内丸山遺跡に訪れたという。

また、まだ 鉄器が現れる前の時代から 物と物との接合接着に「アスファルト」が使われていた。接合に携わるものとして、接合・接着の原点とでもいえる古代の「アスファルト」接着がどんなものか知りたいと思っていました。 縄文時代このアスファルトは新潟「越」の国で産出。交易品として日本海沿岸で広く使われていたという。この「越」の国のアスファルトを石の鏃につけて柄と接続されて展示されていました。

いろんな本で聞いていたが、やっと現物見ることに出来ました。



石鏃とその柄の接合に使われた「アスファルト」

熔融接合の原点は「奈良の大仏の鑄掛け」。

それに先駆ける事数千年前 縄文時代からアスファルトによる接合・接着が行なわれていた。

同じ時代「漆」もまた土器の装飾・接着につかわれ、山内丸山遺跡の土器などの彩色にはベンガラをまぜた赤漆が用いられていた。

簡単そうで中々思いつかぬ物作りのアイデア。 数千年前 既に朝鮮半島から本州・北海道に至る日本海沿岸で「黒曜石」「ヒスイ」などと一緒に広く交易されており、弥生時代以降の「鉄」と同様に大きな文化圏をになう役割を果しているに違いない。

2001. 4. 27. 歴史民俗博物館 「縄文文化の扉を開く」展にて